

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街 神田 1階		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action\\_kounyo\\_u\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&lievosvoCd=2297200558-](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2297200558-)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年2回の家族会は唯一家族と交流を図る場なので継続して行っています。地域との交流を図る為、夏祭りを開催し、地域の方にも施設の事をご紹介させて頂いています。常にご利用者様がいつまでも安心した生活ができるようにケアを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街のなかでありながら静かな環境で地域との交流も盛んにおこなわれ、リレーション上手な事業所です。本年の夏祭りでは自治会だけでなく個人宅のテントを借りることができ、設営をはじめとする支度にも積極的に関わってもらえ、150余の人で賑わいました。夏祭り委員会を結成して準備を進め、回覧板での周知を図る等励んだ職員も、祭り太鼓の「太鼓尊塾一心」で湧く会場の様子に達成感で一杯になった1日でした。また家族会には大道芸や浜松出身のメジャー歌手カラフルパレットを招いて、親睦を図るほか、大型バスを貸切り、浜名湖ロイヤルホテルで利用者、家族、職員が一緒に食事会もおこない好評を博しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし笑顔で対応している	開設当初の職員から近年入職者まで、20代～60代の職員が一つとなって朗らかな対応に努め、出勤時に利用者一人ひとりに挨拶することが定着しています。利用者の反応の様子からその日の体調も確認でき、理念の実現との一挙両得と成っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方との日頃の挨拶は、職員全員が意識して行っている 地域の行事に参加している	毎月7日開催の「お達者クラブ」では、折り紙や健康体操に親しみ利用者が充実した時間を過ごせるほか、職員も事業所で採り入れたらよい内容を勉強でき助かっています。地域の有志からなる劇団が白雪姫を上演くださったり、プロ歌手のギター演奏の日もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物に出かけ、地域住民や社会交流を図ることで理解を深めて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、偶数月にて運営推進会議を実施している。生活状況や身体的な状況などを報告し、参加者からアドバイスを頂いている	家族会があるためか家族出席は少なく、事業所としても特段の対策はありませんが、運営に係る助言には速やかに取組み、本年も向上実績があります。地域の地震対策委員となっている民生委員が、災害のことには力の入った意見を挙げてくださっていることも記録から確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明なことなど連絡相談をしている。	市役所との窓口を引き継いだばかりで、現在の管理者は未だ挨拶に出向けていませんし、市役所も運営推進会議への出席は少なく、現状は顔の見える関係が築けていません。地域包括支援センターには運推メンバーとしてだけでなく、利用者紹介もあり、円滑な関係にあります。	市役所窓口との関係をつくっていくことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、拘束のないケアを職員全員が実施している	毎月実施される法人主催の研修には本件もメニューとしてあり、リーダーが受講後所内に落とし込んでいます。現在、帰宅願望のある人がいるためユニット入口は施錠し、フォーカスを替えることで落ち着いてもらえるよう家事支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に参加し、職員に展開している。職員一人一人が態度や言動に注意し、身体的、精神的虐待防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の仕組みや日常生活自立支援事業などが理解する為、リーダーが社内研修に参加し、職員へ展開している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、不安や疑問点を尋ねて理解、納得して頂いて締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話など要望があればできる限り応えるように心掛けている	「病院の運動メニュー」の導入を求める家族に応じて検討予定です。家族から「いつも決まった職員のみ」と、面会の際の近況報告における職員対応への意見が挙り、以降は連絡ノートや会議の場で話し合い、今では誰でも話ができるようになったという改善事例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や意向があれば随時聞き入れ、会議にて話し合うように取り組んでいる	朝礼、カンファレンス、ミニカンファレンスと協議の場が多面的にあり、さらには毎月1回のミーティングは、必要に応じて追加のミーティングがあるというほど、意見集約に熱心です。また、会議の場で言えないことも管理者の元に個別に届いていて、風通しは良好です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。また、キャリアパス制度が導入されている。離職率の低下を目指し、やりがいのある環境づくりに努めている。年2回の親睦会でコミュニケーションを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修・初任者研修などの参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加したり、市や地域包括などの開催している講習・研修などに参加をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。収集情報をもとに安心してもらえるようなケアができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にあセスメントをとり、困っていることや意向など伺いサービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たため、食器洗いなどを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度神田だよりを発行し、施設での様子を自筆で伝えている。面会時には日頃の様子や変化を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内・友人・教え子・会社関係者などの人が気軽に面会に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている	教師だった人の元には教え子が訪れていたこともあり、できる限り縁ある人と再会できるよう、面会の場を居心地よくセッティングしています。折り紙が趣味の人は自室いっぱい飾りあげていたり、また社交ダンスをしていた人のダンス談義には職員がウンウンと頷いて耳を傾けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はその関係が継続できるよう支援している。利用者様同士でトラブルもあるが職員が間に入り声掛けして大きなトラブルなく過ごしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行し、自分の思いや希望を伝える事が難しい方がいるが、テレビや雑誌、広告などを見てヒントを得たり、普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。(本人が食べたい物や飲みたいものなど選んで頂き提供している)	雑誌やチラシを見てもらうことで本人の食べたいものを確認できたり、例えば「廊下突き当たりのベンチは開放的になれるのかよく話す」といった居心地も加味し、また帰宅願望の強い利用者には食事の片付け等をお願いすることで不穏が消え、明るく笑っていることが増えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任のケアマネから情報提供を受け、利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺い、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握している。また、病院や施設からの入所に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他のご入所様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりがご入居者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるよう職場会議で話し合い結論を出している	経過記録と生活管理票をベースとし、症状の重い人には「〇〇さんノート」を用意して詳細を付加させ、カンファレンスをおこなっています。サービス担当者会議は家族、介護支援専門員、管理者、訪問看護師、福祉用具専門員が一同に会することもあるほど、丁寧に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食量や排泄など毎日様子観察し気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能の低下や認知症状が悪化したことで個々に何が出来て何が出来なくなっているのかの問題点や課題をあげ、職場会議にて検討し職員一人ひとりが柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医か、施設に月2回往診がある往診医にするかを家族に決めて頂いている。往診医は24時間対応のため、体調変化の相談、緊急時の往診依頼などの対応に努めている。また、近隣にある総合病院と提携しており、連携を図っている旨も伝えている。	協力医とは別の訪問診療医が月2回来所して、24時間体制の親身な対応を得ています。専門医への受審は「〇〇さんノート」を家族に携えてもらい経過を確認してもらっています。最近そのノートを通じて「運動メニュー」を医師から提案されていることから円滑な連携が覗えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	弊社訪問看護ステーションと医療連携しており、軽微な症状でも看護師が相談を受けてくれる。家族や医師にも情報連携し、早期発見に努めて適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。退院時において担当者会議を行っている。(担当者会議について事前に病院と家族との了解を得て行っている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようにカンファレンスを開いている	未だ看取り実績はありませんが、法人の年間研修には係るメニューが組み込まれ、学習を積んでいます。契約時には家族に「看取りをおこな事業所である」ことを伝えていて、詳しくは現状変化に応じて都度話し合いの場をもつという手はずとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護保険にて年2回の防災訓練を義務付けられているが、現在は2か月に1回防災避難訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、本部で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している	併設事業所と合同で年2回、消防署立ち合いで総合訓練を実施するほか、隔月で「防災頭巾を被って玄関まで出る」練習をしていて、通常の火災や屋間想定訓練は繰り返しおこなえています。利用者も参加していて、消防職員から助言も役立てています。	未実施の風水害、夜間想定訓練とともに、地域との連携に向かう第1歩の何らかの取組みがあることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として人生の先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人ひとりの言動に注意し対応にあたっている。(職員が相手の立場だったらどうか考えるようにしている。)	「不必要なことは言わない」反面、言葉には親しみを込め、その人らしくいられる言葉を積極的に遣うようにしています。「トイレ誘導は本人に聞こえる程度の声で話す」よう徹底し、また医師の診療ではスクリーンで囲んで専用ブースをつくり、プライバシーや尊厳を守るよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減を持って対応している。なにげない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	性格・年齢・入所前の生活習慣や環境が違う為、決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大切にしている。また、希望や訴えがあればできるだけ沿えるよう努めている。職員のペースになることも多々あるので職場会議にて意思統一を図っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。(洋服選びと髪型については本人の意思・意向によって決めている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを会話の中から聞き取りイベント等で提供している。おしぼりを巻いたり食器やお盆を拭いたりしている。	コシヒカリで炊いたご飯のみ職員が用意し、総菜は業者から運ばれてきます。10時にはココア等ドリンク、15時にはプリンやホットケーキ等おやつ、誕生日にケーキ、夏祭りにはクレープ等と、普段の食事が手づくりでない分、「食の楽しみ」の機会を都度考えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし、指示を仰いでいる。低栄養予防のためメイバランスなどの栄養補助食品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対しても必ず最後に口腔内の確認を取っている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう早めの対応を実施している。できるだけ日中は綿パンにパットまたは綿パンのみの対応に心掛けている。	排泄状況は生活管理表へ記録のうえ、実績を頼りに早めの声掛け誘導をおこなうことで、失禁が減っています。リハビリパンツの使用で少しだけ濡れているということが続いた利用者は、9月上旬に布パンとパットセットに替えることを試みて、現在も維持が叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など赤ペンで記録している。なるべく自然排泄が行えるよう水分を摂って頂くよう声掛けしている。便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応にあたっている。入浴剤を入れるなどリラックスして湯船につかれるようにしている。	現在、シャワー浴の人が2名いますが、少なくとも週2回を目途として(3回のときもあり)、湯に浸かる喜びを味わってもらえています。溶剤は体の状態が見えるよう、湯水に色がつかないものを使い、また湯は足し湯ではなく2名毎に入れ替え、安全面や清潔にも気遣っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子ご利用者様に関しては足のむくみも見られる為午前午後とも1時間程居室にて横になって頂く。また、それ以外の人でも屋間に少し横になりたいと訴えがあれば居室にて昼夜逆転にならない程度に横になって頂く。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談をかけている。状況をご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設や地域のイベントでの屋台(やきそば・フランクフルト・ヨーヨーなどなど)で楽しみ気分転換を図っている。気候のいい日には散歩やドライブなどの外出をしている。役割として、食器拭き・洗濯物たたみ・おしぼり巻きなどの役割ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の希望や職員の希望を聞くなどして企画を立て出かけている。	春には家族会として、大型バスで浜名湖のホテルに食事に出かけていますが、特段外出を年間計画に位置付けてはいません。そのため、ADLが落ちたり、歩けなくなった人は散歩が無理となったり、足を延ばすミニドライブも思いついたってのものになっています。	年間での外出企画とともに、歩けなくなった人の外出支援をどのようにしたらいいかについて、改めて検討していくことを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によってお金を渡しご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうよう促しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。ご利用者様が居心地よく過ごせるよう、常に温度・湿度の調節を図るよう心掛けている。	普段は食事をするテーブルではペットボトルの蓋を使った絵合わせで利用者たちが楽しんでいて、最近は手作りのゲームが盛んです。またソファはテレビを囲むように置かれていて、居心地や動線へ配慮があることが覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。	カーテン、エアコン、洗面所、クローゼットが備わり、ベッドはレンタルです。「今まで通り布団がいい」ということから簀子を敷いてあったり、お嫁り道具と一目でわかる古い筆筒が置かれた居室もみられます。賞状や位牌といった大切なもの、テレビなどの電化製品の持ち込みもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、自分で目的の場所に行けるように工夫している。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り・環境作りに心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街 神田 2階		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

年2回の家族会は唯一家族と交流を図る場なので継続して行っています。地域との交流を図る為、夏祭りを開催し、地域の方にも施設の事をご紹介させて頂いています。常にご利用者がいつまでも安心した生活ができるようにケアを心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

街のなかでありながら静かな環境で地域との交流も盛んにおこなわれ、リレーション上手な事業所です。本年の夏祭りでは自治会だけでなく個人宅のテントを借りることができ、設営をはじめとする支度にも積極的に関わってもらえ、150余の人で賑わいました。夏祭り委員会を結成して準備を進め、回覧板での周知を図る等励んだ職員も、祭り太鼓の「太鼓尊塾一心」で湧く会場の様子に達成感で一杯になった1日でした。また家族会には大道芸や浜松出身のメジャー歌手カラフルパレットを招いて、親睦を図るほか、大型バスを貸切り、浜名湖ロイヤルホテルで利用者、家族、職員が一緒に食事会もおこない好評を博しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし笑顔で対応している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方との日頃の挨拶は、職員全員が意識して行っている 地域の行事に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物に出かけ、地域住民や社会交流を図ることで理解を深めて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、偶数月にて運営推進会議を実施している。生活状況や身体的な状況などを報告し、参加者からアドバイスを頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明なことなど連絡相談をしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、拘束のないケアを職員全員が実施している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に参加し、内部研修を行っている。職員一人一人が言動や身体的、その他虐待防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の仕組みや日常生活自立支援事業などが理解する為、リーダーが社内研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、不安や疑問点を尋ねて理解、納得して頂いて締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話など要望があればできる限り応えるように心掛けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や意向があれば随時聞き入れ、会議にて話し合うように取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。また、キャリアパス制度を行っている。職員の入れ替わりが多い為働きがいのある職場環境とは言えないが、やりがいのある環境づくりに努めている。年2回の親睦会でコミュニケーションを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修・初任者研修などの参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加したり、市や地域包括などの開催している講習・研修などに参加をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。収集情報をもとに安心してもらえるようなケアができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にあセスメントをとり、困っていることや意向など伺いサービスにつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器洗いなどを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度神田だよりを発行し、施設での様子を自筆で伝えている。面会時には日頃の様子や変化を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内・友人・教え子・会社関係者などの人が気軽に面会に来て頂けるような雰囲気づくりに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はその関係が継続できるよう支援している。利用者様同士でトラブルもあるが職員が間に入り声掛けして大きなトラブルなく過ごしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のレベルが落ちてきている為それぞれの思いや希望を伺っても難しい人があるので、テレビや雑誌、広告などを見てヒントを得たり、普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。(本人が食べたい物や飲みたいものなど選んで頂き提供している)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺ったりまた、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握している。また、病院や施設からの入所に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他のご入所様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりがご入所様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるよう職場会議で話し合い結論を出している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食量や排泄など毎日様子観察し気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能の低下や認知症状が悪化したことで個々に何が出来て何が出来なくなっているのかの問題点や課題をあげ、職場会議にて検討し職員一人ひとりが柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に月2回往診に来ている先生にするかを家族に聞いている。また、提携している病院も近くにありそちらとの連携を図っている旨も伝えている24時間対応して下さるので、ちょっとした変化や緊急は先生に連絡を取り、指示を仰いだけり往診に来てくれるなど対応に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談をし、家族や医師にも伝え早期発見に努めて適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。退院時において担当者会議を行っている。(担当者会議について事前に病院と家族との了解を得て行っている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようカンファレンスを開いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、年2回の防災訓練を行っているが現在は2か月に1回防災避難訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、教育で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として人生の先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人ひとりの言動に注意し対応にあたっている。(職員が相手の立場だったらどうか考えるようにしている。)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減を持って対応している。なにげない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、また、性格や年齢も違うので決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大事にしている。また、入居者様の希望や訴えがあればできるだけ沿えるよう努めている。職員のペースになることも多々あるので統一を図るため職場会議で話をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。(洋服選びと髪型については本人の意思・意向によって決めている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを会話の中から聞き取りイベント等で提供している。おしぼりを巻いたり食器やお盆を拭いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし、指示を仰いでいる。それ以外では、メイバランスなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対しても必ず最後に口腔内の確認を取っている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう早めの対応にあたっている。できるだけ日中は綿パンにパットまたは綿パンのみの対応に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など赤ペンで記録している。なるべくスムーズな排泄が行えるよう水分を摂って頂くよう声掛けしている。便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応にあたっている。入浴剤を入れるなどリラックスして湯船につかれるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子ご利用者様に関しては足のむくみも見られる為午前午後とも1時間程居室にて横になって頂く。また、それ以外の人でも屋間に少し横になりたいと訴えがあれば居室にて昼夜逆転にならない程度に横になって頂く。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談をかけている。状況をご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設や地域のイベントでの屋台(やきそば・フランクフルト・ヨーヨーなどなど)で楽しみ気分転換を図っている。気候のいい日には散歩やドライブなどの外出をしている。役割として、食器拭き・洗濯物たたみ・おしぼり巻きなどの役割ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望や職員の希望を聞くなどして企画を立て出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によってお金を渡しご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうよう促しをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。ご利用者様が居心地よく過ごせるよう、常に温度調節を図るよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、自分で目的の場所に行かれるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り・環境作りに心掛けている。		